大曲. 2, VI, 1956.

35. *Reticularia Lycoperdon* Bulliard, Champ. France, 95, 1791; Lister, Monogr. ed. 3, 194; 江本 l. c. 164.

著合子嚢体はほぼ球形，直径 10～20 mm. 赤褐色，変形膜は纏絡する膜状体となる。擬細毛体は子嚢壁の残存部分からなり，変形膜から発して不規則に分岐する糸状体となる。胞子は球形，多数付着して集塊をつくり，赤褐色，表面の約 2/3 は網目構造となり，他の部分には疣状突起がある。直径 6～9μ。—Hab. スギ腐朽木上. 角館. 7, VIII, 1956; スギの腐朽枝上. 栗駒山麓. 15, VII, 1957. (To be continued)

○トクサ属の導管——表紙カットについて（津山 尚） Takasi TUYAMA: On vessels of *Equisetum*

D. W. Bierhorst 氏は American J. Bot. **45**-7: 534-537 (1958) において，スギナ，トクサを含む 9 種のトクサ属でカットに現わされた新型式の導管を発見したと報告した。一般にトクサ属の茎には稜の直下で髄腔に近い内部に稜腔 (carinal canal) と言う縦溝が節間部にあつて，この内壁に原生木部が見られる。稜腔には水液が充されていて節部の仮導管と連絡して通導作用をするものと考えられている。この連絡部にほぼ等径的な細胞があつて，大形の網目を有する網紋二次肥厚膜を有する。この細胞が成熟すると上下穿孔してごく短い導管となることを見出した。この時，先ず薄膜部が上下に著しく膨出して填充体 (tylosis) のような形をとつた後に穿孔するのである。氏は少くとも 5 種のトクサ属で，地下茎の稜腔外方の仮導管群（これは従来知られていたように後生木部に限つてはいずに，種又は位置の差によつて全部が後生木部か原生木部のときと両方が混合して存在していることがある由）中に網紋を有する端膜の穿孔による普通の導管の形成を発見している。

被子植物以外で導管の発見された例は，*Ephedra*, *Gnetum*, *Welwitschia* などいわゆる高等な裸子植物の他に，*Pteridium aquilinum* (ワラビ, Bliss 氏 1939, Duerden 氏 1940), *Dryopteris filix-mas?* (Bancroft 氏 1911), *Selaginella rupicola* ほか同属の 1-2 種 (Duerden 氏 1933, 1934) など分類学上遠くはなれていると考えられる群にもあつたが，今トクサ属の例を加えて，ますますその有無を機械的に分類学上の major group の特徴とすることが難しくなつたようである。これは仮導管が穿孔すれば導管であると機械的に定義し，両者を別の category とする考えへの反省をうながすものである。

□ 東北大学理学部附属青葉山植物園の創設開園 Aobayama Botanical Garden, Tôhoku University, Sendai will be opened this April.

もと伊達侯青葉城址で，永く旧第二師団の管轄下にあり，結果として植生が保護されていた土地であり，駐留軍の使用後東北大学に帰属した。面積 12 万坪を超え，山あり谷ありでその利用と効用は大いに期待される。この 4 月から開園される。園長は木村有香教授。（前川）